2026. 8. 20

【日本貿易統計（26 年 7 月）】

# 輸出、半導体関連がけん引し 11 ヵ月連続プラス

## ～AI 関連需要拡大が見込まれ、先行きは当面、堅調な推移を予想～

経済調査部　主席研究員
藤田　敬史

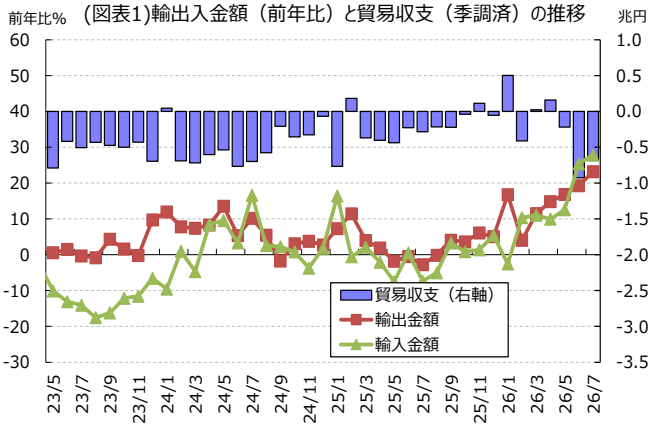
**ポイント**

- **財務省の 7 月貿易統計によると、輸出金額は前年比＋23.2%と 11 ヵ月連続のプラス。季調済前月比は＋2.8%と 5 ヵ月連続のプラスとなった**
- **円安による円換算額の押し上げが続くも、実勢を示す輸出数量指数でも 5 ヵ月連続のプラス。商品別では半導体等電子部品を含む電気機器、半導体等製造装置を含む一般機械、輸送用機器がプラス寄与**
- **AI 関連需要の拡大が見込まれるなか、輸出の先行きは、当面、半導体関連がけん引する形で堅調に推移すると予想**

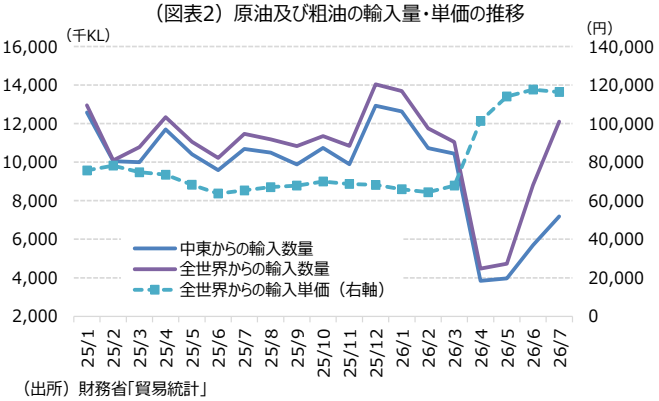
### 1．季調済輸出金額前月比は 5 ヵ月連続のプラス

財務省から発表された 7 月の貿易統計によると、輸出金額は前年比＋23.2%（6 月：同＋19.3%）と 11 ヵ月連続のプラスとなった（図表 1）。輸入金額は同＋27.8%（同＋25.4%）で 6 ヵ月連続のプラスであった。輸出金額は 11 兆 5,118 億円、輸入金額は 12 兆 1,463 億円と、いずれも比較可能な 1979 年以降で過去最高となった。

輸入金額は 5 月以降、3 ヵ月連続で対前年の伸びが拡大しており、原油及び粗油（前年比＋87.8%、寄与度＋6.9ポイント）や半導体等電子部品（同＋79.7%、同＋2.6ポイント）が増加した（後述）。原油の輸入単価（1 キロリットル当たり）は、7 月は 11.6 万円と、6 月の 11.8 万円からは小幅に低下したものの、引き続き高水準で推移している（図表 2）。地域別では、米国からの原油及び粗油の輸入増が続いており（輸入金額：前年比＋1,489.2%、数量：同＋814.5%）[1]、中東からの代替調達が進むなか、従来に比べより長いルートへの切り替えに伴う輸送費や保険料の値上がりが輸入単価の高止まりにつながっている。




（出所）財務省「貿易統計」




（出所）財務省「貿易統計」

[1] 6 月の輸入金額は前年比＋907.4%、数量は同＋459.5%

季調済輸出金額は前月比＋2.8％と 5 ヵ月連続のプラス、季調済輸入金額は同＋0.4％と 4 ヵ月連続のプラスとなった。季調済貿易収支は▲6,860 億円と 3 ヵ月連続の赤字で、赤字幅は縮小した。

## ２．EU、アジア、米国向けプラスが続く、商品別では半導体関連がけん引

金額ベースの国（地域）別輸出は、EU 向けが前年比＋19.1％、アジア向けが同＋24.5％とそれぞれ 12 ヵ月連続のプラス、米国向けも同＋22.0％と 5 ヵ月連続のプラスであった（図表 3）。

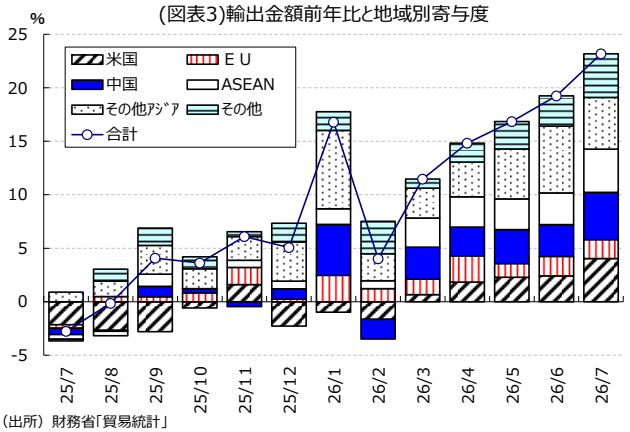
金額ベースの商品別輸出では、半導体等電子部品を含む電気機器（前年比＋29.4％・寄与度：＋5.2 ﾎﾟｲﾝﾄ）が好調に推移しているほか、半導体等製造装置を含む一般機械（同＋18.4％・同：＋3.3 ﾎﾟｲﾝﾄ）もプラスに寄与した（図表 4）。半導体関連はアジア向けを中心に堅調な推移が続いており、半導体等電子部品が同＋52.5％（寄与度：＋5.5 ﾎﾟｲﾝﾄ）、半導体等製造装置が同＋39.2％（同：＋2.4 ﾎﾟｲﾝﾄ）と大きく増加した（図表 5）。半導体等電子部品は輸入金額も増加しており、アジア域内からは前年比＋86.1％であった。AI やデータセンター向けの半導体需要拡大が、アジア域内の半導体サプライチェーンを通じて日本の輸出を押し上げているとみられる。

そのほか、輸送用機器（前年比＋20.7％・寄与度：＋4.6 ﾎﾟｲﾝﾄ）は、自動車が EU 向け（同＋46.8％）、米国向け（同＋32.1％）がプラスとなった。台数ベースでは EU 向けは前年比＋29.5％と伸びたが、米国向けは同＋0.1％にとどまった。

## ３．実勢を示す輸出数量指数は 5 ヵ月連続のプラス、輸出は先行き堅調に推移すると予想

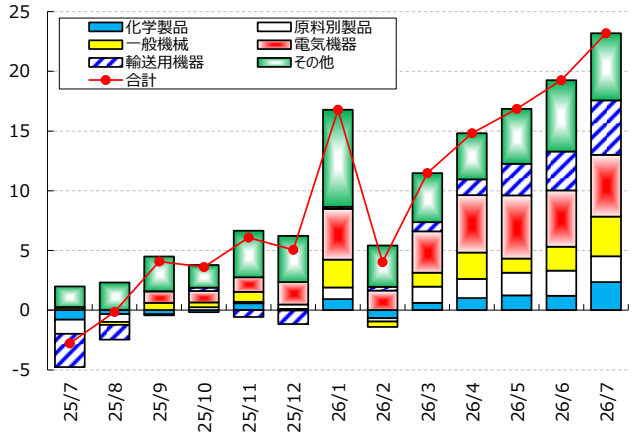
輸出金額を価格指数と数量指数に分解すると、7 月は価格指数が前年比＋17.1％（6 月：同＋19.0％）、数量指数は同＋5.2％（同＋0.2％）であった（図表 6）。価格指数は 12 ヵ月連続のプラスで、2026 年 7 月の為替レート（税関長公示レートの平均値）は 161.83 円/ﾄﾞﾙと、2025 年 7 月の 145.56 円/ﾄﾞﾙに対し 11.2％の円安であった。円安により円換算金額が押し上げられる構図が続くなか、輸出の実勢を示す数量指数は 5 ヵ月連続のプラスとなった。7 月はプラス幅が拡大するなど数量面でも改善が鮮明になった。

(図表3)輸出金額前年比と地域別寄与度



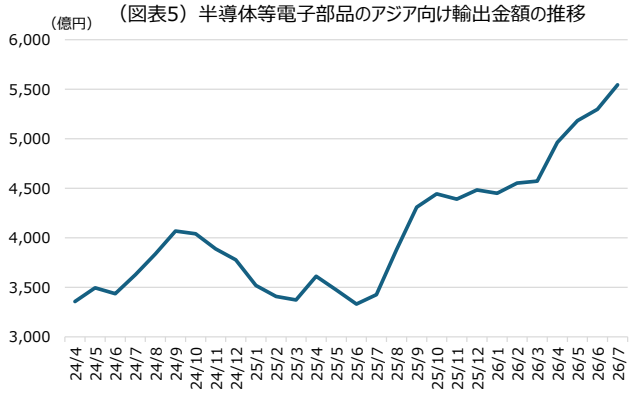

（出所）財務省「貿易統計」

（図表4）輸出金額の前年比と主要商品別寄与度



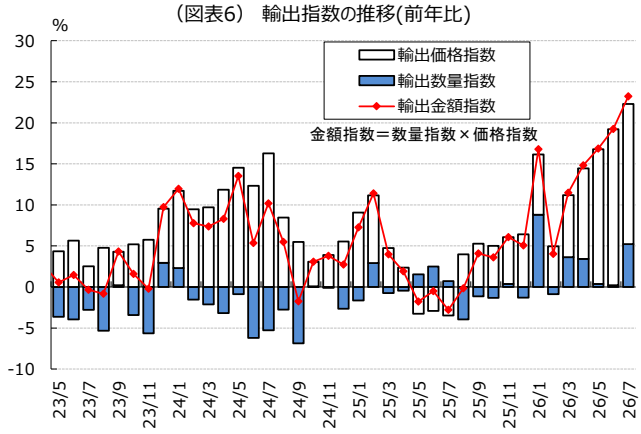

（出所）財務省「貿易統計」

（図表5）半導体等電子部品のアジア向け輸出金額の推移




（出所）財務省「貿易統計」、3ヵ月後方移動平均

（図表6） 輸出指数の推移(前年比)

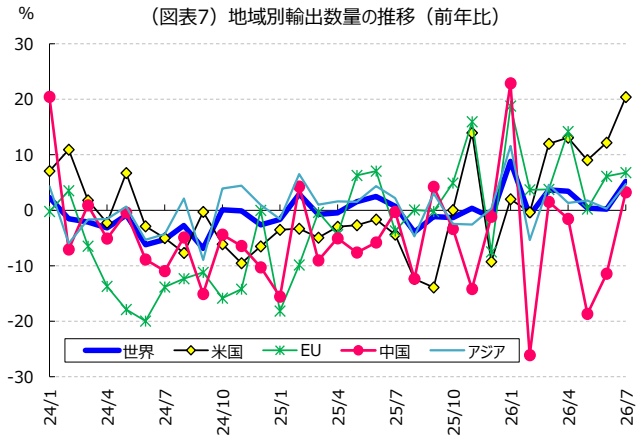



（出所）財務省「貿易統計」

輸出数量指数を相手国・地域別に見ると、米国向けが前年比＋20.4%（6月：同＋12.2%）、EU向けが同＋6.8%（同＋6.1%）、アジア向けは同＋4.7%（同＋0.3%）、うち中国向けは同＋3.2%（同▲11.4%）であった（図表7）。EU向けは7ヵ月連続のプラス、米国、アジア向けは5ヵ月連続のプラスとなった。

先行きの輸出については、AIの普及やデータセンター投資の拡大を背景に、AI向け半導体需要の拡大が続くとみられる。これらをふまえると、アジア向けを中心とした半導体サプライチェーン向けに、半導体関連製品の好調が継続することが見込まれ（前掲、図表5）、当面、堅調に推移すると予想する

（図表7）地域別輸出数量の推移（前年比）




（出所）財務省「貿易統計」

本レポートに関するご取材やお問い合わせは以下までご連絡ください
明治安田総合研究所 主席研究員 藤田 敬史
電話番号：080 2298 8272
e-mail：takafumi.fujita@myri.co.jp

※本レポートは、明治安田総合研究所が情報提供資料として作成したものであり、いかなる契約の締結や解約を目的としたものではありません。掲載内容について細心の注意を払っていますが、これによりその情報に関する信頼性、正確性、完全性などについて保証するものではありません。掲載された情報を用いた結果生じた直接的、間接的トラブルや損失、損害については、一切の責任を負いません。またこれらの情報は、予告なく掲載を変更、中断、中止することがあります。

●発行元● 株式会社 明治安田総合研究所 〒102-0073 東京都千代田区九段北3－2－11 TEL03-6261-6411